

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

弁護人窪田正三郎の上告趣意について、

論旨第一点及び第二点は、第一審判決が適法に証拠に基づいて認定し、原判決が正  
当に判示する本件犯罪事実を、独自の法律論を基礎として争い、その誤認を主張す  
るものであり、同第三点は、独自の法律論をなして原判決を非難するものであり、  
同第四点は、原審と異つた見地に立つて、いわれなく原判決の法令違反を主張する  
もので、いずれも刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。

また記録を調べても、同四一一条を適用して原判決を破棄するに足る事由を発見  
することはできない。

よつて同四一四条、三八六条一項三号により裁判官全員一致の意見で主文のとおり  
決定する。

昭和二七年一月二日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎